

評価結果総括表 (2013年暫定版)

福島県
相馬郡
新地町

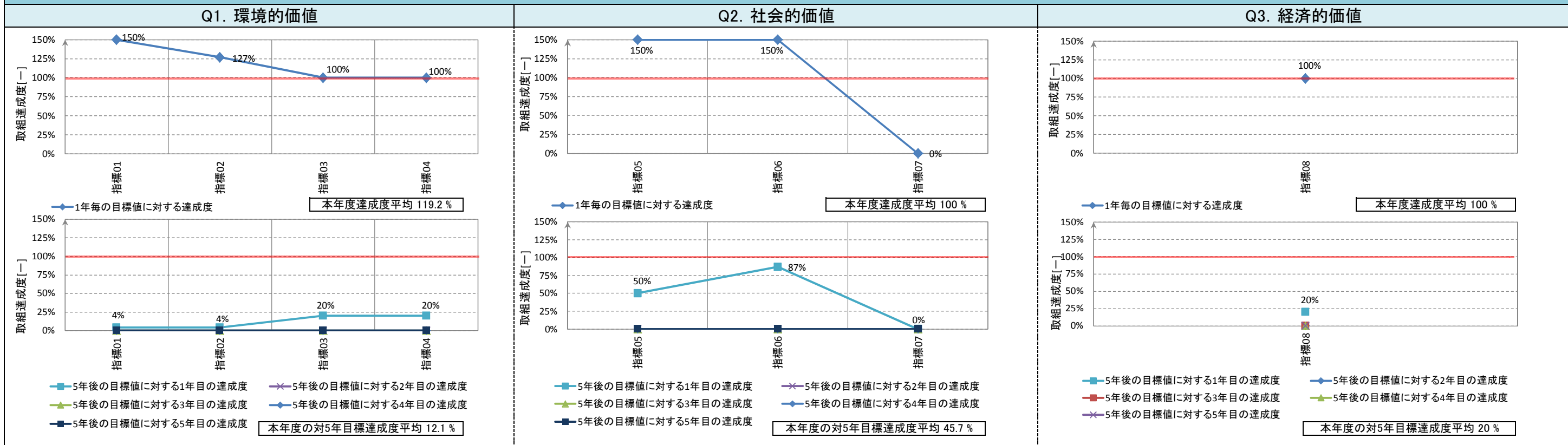
人口: 7,809人
世帯数: 2,581世帯(平成24年3月末現在)
就業人口: 3,922人(平成22年10月1日現在)
町内GDP: 41,083円(平成22年度)
面積: 46.35km²(うち森林面積16.36km²)

平成24年度の
取組の都市総括

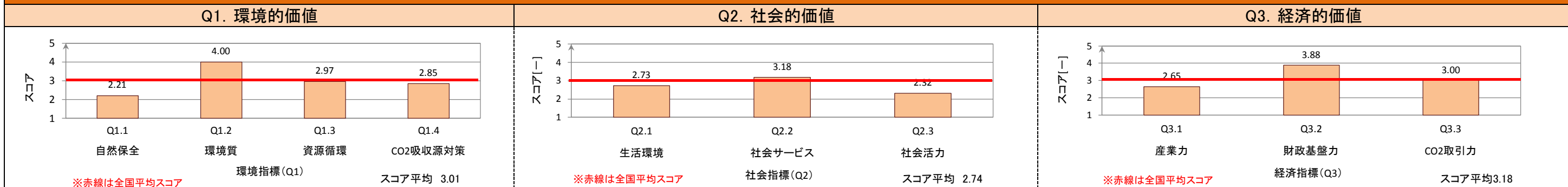
環境未来都市として「スマート・ハイブリッドタウン」をめざし、町内の農業施設・公共施設でのエネルギー利用状況の把握、災害復興住宅等の集会所や既存公共施設への太陽光発電システムの設置検討、環境対応型の新たな公共交通システムの検討など、具体化事業の実現に向けた取り組みを行った。

- 取組1: 町内小中学校に設置分の84kWが稼働開始した。
- 取組2及び取組3: 「先導的モデル事業」を活用し、各種再生可能エネルギー利用の可能性、見える化システムによるエネルギー消費の把握、各施設用途における再生可能エネルギー導入事業の実現可能性検討、スマート・ハイブリッド・ネットワーク構築に向けた基本方針等の調査・検討を行い、その実現に向けて現時点で可能な実証調査を実施した。
- 取組4: 大規模野菜工場、観光センター等の事業化を想定しているが、本格的な復興事業が進捗するまでは構想・計画段階に留まっている。
- 取組5: コミュニティ交通の導入も視野に入れた新たな公共交通システムの事業化に向けた調査を実施している。現在のモビリティシステムもわずかではあるが、利用者数は増加している。
- 取組6: ブロードバンドインフラの利用環境の拡充、利用者のニーズ拡大を受けて、ブロードバンド利用世帯数は大きく増加した。

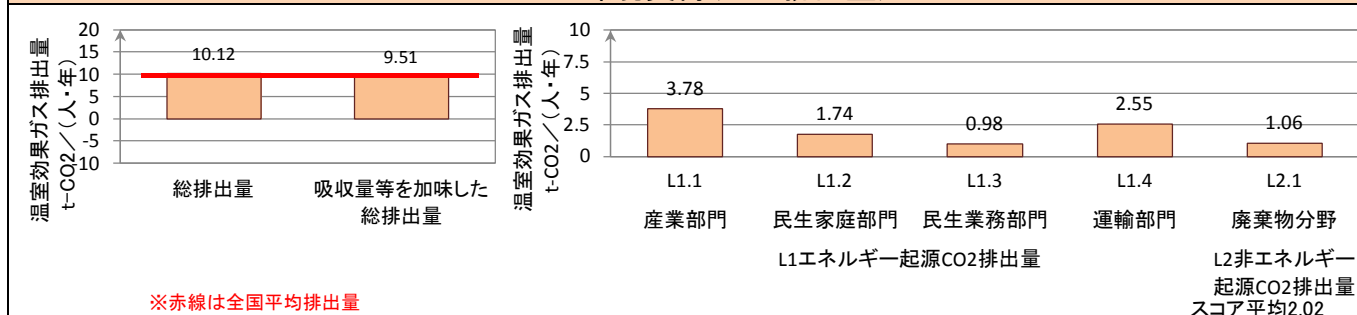
フロー評価結果(取組進捗評価(自主評価))



ストック評価結果(CASBEE都市評価(統計データ)) ※統計データは2010年のもの。都市の現状値を評価



L. 環境負荷(CO2排出量)



推進ボードからのコメント

フロー評価では、高齢者のQOL向上に資するサービス利用(指標7)以外は概ね計画通りの進展をみせており努力を高く評価したい。他方、FS段階を終え、2013年度から本当の意味での進捗が問われるフェーズに入ることから必要に応じて柔軟に見直ししながら進捗管理を進めることを期待したい。

ストック評価では一部データ欠損の制約はあるものの、現状概ね良好な水準にある。しかし、他の被災地と同様に社会活力の低下がリスクファクターであり、バイオマスなど再生可能エネでの新規雇用、スマートグリッド化によるQOLの改善などフロー項目に掲げる施策の早期実現が課題。

推進委員会からのコメント

- リソースが限られている中で、多様な取組を非常に頑張っている。
- 環境・経済・高齢化の各観点に応じて適切な取組を行っている印象を受けた。
- 各取組みが順調に進捗している印象を受けた。
- 防災集団移転事業について、介護関連施設や交通手段との上手な連携を期待している。
- 工業団地の復活などを考えると、被災地再生モデルとして優良なものとなり得る。

評価指標リスト

指標番号	価値分類	評価指標
指標01	環境	再生可能エネルギー発電量 kW
指標02	環境	再生可能エネルギー自給率 %
指標03	環境	バイオマスのエネルギー利用量 万トン/年
指標04	環境	新地版スマートグリッドとなる「スマート・ハイブリッド・ネットワーク」のカバー率(人口比)
指標05	社会	延べ利用者数 人/年
指標06	社会	ブロードバンドサービス普及率 %
指標07	社会	延べ参加者数 人
指標08	経済	雇用増加数 人

環境未来都市 PDCAサイクルを回すための取組執行体制に係わる自己チェックリスト

作成日：平成25年5月31日

作成者(部署/氏名)：新地町 企画振興課 副主査 加藤孝佳

承認者(部署/氏名)：新地町 企画振興課 課長 平間正光

確認事項	チェック項目	確認根拠	確認	是正処置
①環境未来都市計画及び目標の策定	環境未来都市計画の各取組に中長期(5年後)および単年度(1年後)の目標が設定されている。	環境未来都市計画書	✓	
	全ての目標値は定量的に評価できる。定量的に評価できない目標値は、その進捗を計測する代替手段がある。		✓	
	全ての取組においては責任者が定められており、明文化されている。			未対応
②実施体制の構築	構成員間の役割分担・責任分担が明文化された体制図が作成されている。	体制図	✓	事業別WG設置予定
	部局間、事業間の連携を図るために仕組みづくり(会議運営等、各都市で具体的な内容を明記)が検討されており、かつ実行されている。		✓	
③都市間連携・ネットワークの有効活用	(都市名と具体的な連携内容)に関して連携をしている、もしくは今後連携を予定している。			未対応
	成功事例を他へ展開するために具体的な仕組みを構築している、もしくは今後構築を予定している。			未対応
④関係者の参画	全体計画の立案から、その実行、見直しの全てのフェーズにおいて関係者が参画している。	調査検討委員会要綱	✓	
	環境未来都市計画において各取組に参画が必要な関係者が特定されており、明文化されている。			未対応
⑤関連文書の記録・作成	文書の作成者、承認者が決まっている。また文書・記録の管理を実施する責任者が決まっており、明文化されている。		✓	
	作成された文書・記録の保管場所・保管期間が決まっており、関係者に周知徹底されている。		✓	
	ウェブサイト等のICTを活用した情報開示を行っている。		✓	
⑥取組状況の定期的な確認並びに問題の是正および予防	計画の中で、定期的(具体的な回数、2回/年など)に「取組評価」の自主評価が明文化され、かつ実行している。	調査検討委員会要綱	✓	
	定期的(具体的な回数、2回/年など)な自主評価の結果、目標の達成が難しいと判断された取組に対しては確実に是正処置を施すよう、その確認をする責任者が決められている。		✓	
	計画の中で、毎年PDCAサイクルを回すための取組執行体制に係わる自己チェックリストの自主評価が明文化され、かつ実行している。			未対応
⑦代表者による全体の評価と見直し	代表者による全体評価のプロセスが構築され、かつ実行している。			未対応
	代表者による全体評価において評価すべき項目が決められている			未対応
	前回の代表者による全体評価での指示事項は全て実行されている。			未対応
⑧その他				

是正処置への対応の詳細

代表者による確認

新地町環境未来都市計画が、復興に向け心の支えとなっている。PDCAを心がけ計画の推進により、未来志向の復興を成し遂げたい。

推進ボードによる確認

国立環境研究所との連携を実現するなど、構想推進に向けた体制整備は一定の進展をみているが、具体的な事業を担うWGとこれらの進捗管理・総合調整を担う検討委員会の設置作業が遅れており、早期の設置が望まれる。また、プロジェクトマネージャーについて記述がなく、外部のシンクタンクやコンサルタント会社への委託等を想定しているように見える。これから各事業が具体的な進捗管理のフェーズを迎えることから、どのような形でマネジメントを想定するのか早急な検討が望まれる。

推進委員会による確認

- 2年目から事業の具体化フェーズに入るため、推進体制を整備し、各事業を確実に進捗させて欲しい。
- ガバナンス体制を堅固にし、各取組を前に進めて欲しい。

(参考)取組進捗状況一覧

環境未来都市計画での記載内容												1年目(2012年度)の達成状況					
都市名	取組番号	取組	指標番号	評価指標	価値分類	評価方法	基準値	1年目の目標値	2年目の目標値	3年目の目標値	4年目の目標値	5年目の目標値	1年目の目標値	1年目の実績値	単年度の達成度	5年目標に対する達成度	進捗状況説明
福島県 相馬郡 新地町	取組01	1. エネルギーの地産地消に向けた太陽光発電の導入	指標01	再生可能エネルギー発電量 kW	環境	定量評価	0	50	300	550	1,000	2,000	50	84.7	169%	4%	災害時に避難場所となる各小中学校に太陽光発電システムと蓄電池を設置した。2～3年目についても、防災拠点となる公共施設に導入予定である。また、環境未来都市先導的モデル事業を活用し可能性調査・現況調査等を実施した。さらには、平成25年度より個人住宅において太陽光発電システムを設置するものに対する補助制度を設置した。今後は津波で被災した沿岸部や新地駅周辺の土地区画整理事業等の進捗に併せて企業との連携を図る予定である。
			指標02	再生可能エネルギー自給率 %	環境	定量評価	0	0.01	4.5	8.2	15	30%	0.01	0.0127	127%	4%	
	取組02	2. 地域特性を活かした多様なバイオマスエネルギーの導入	指標03	バイオマスのエネルギー利用量 万トン/年	環境	定量評価 ※1、2年目のみ進捗率評価	0	現況調査・可能性調査実施	企業誘致	2千トン	2万トン	20万トン	現況調査・可能性調査実施	現況調査・可能性調査実施	100%	20%	環境未来都市先導的モデル事業を活用し可能性調査・現況調査等を実施した。今後、企業の誘致を含め誘致企業との再生可能エネルギー(バイオマス燃料等)に関する連携を想定している。
	取組03	3. 多様な地域分散・自立型エネルギー供給による「スマート・ハイブリッド・ネットワーク」の構築	指標04	新版スマートグリッドとなる「スマート・ハイブリッド・ネットワーク」のカバー率(人口比)	環境	定量評価 ※1年目のみ進捗率評価	0	現況調査・可能性調査実施	2	4	6	10%	現況調査・可能性調査実施	現況調査・可能性調査実施	100%	20%	環境未来都市先導的モデル事業を活用し「スマート・ハイブリッド・ネットワーク」に関する可能性調査を実施した。今後、ネットワーク構築に係る事業を実施する。
	取組04	4. 多様な再生可能エネルギーを活用した新たな産業の創出	指標08	雇用増加数 人	経済	定量評価 ※1、2年目のみ進捗率評価	0	可能性調査・技術検討	企業誘致	20	40	100	可能性調査・技術検討	可能性調査・技術検討	100%	20%	環境未来都市先導的モデル事業、復興交付金効果促進事業を活用し可能性調査・現況調査等を実施した。今後は当町工業用地における企業誘致や津波で被災した沿岸部や新地駅周辺の土地区画整理事業等の進捗に併せて企業と再生可能エネルギーに関する連携を図る予定である。
	取組05	5. 超高齢化に対応した地域モビリティシステムの構築	指標05	延べ利用者数 人/年	社会	定量評価	24,263	24,463	28,000	30,000	40,000	50,000	24,463	25,112	425%	50%	復興交付金効果促進事業を活用し、新たに建設される復興住宅団地や災害公営住宅等さらに、医療・福祉施設・JR等の整備計画を踏まえてこれからの公共交通について調査・検討した。今後は、新たな公共交通の実証運行やスマート端末(タブレット)を導入し利便性を高め、住民の公共交通利用促進を促すよう推進する。
	取組06	6. 高齢者のQOL向上に資する多様な地域サービスの提供	指標06	ブロードバンドサービス普及率 %	社会	定量評価	5	10	45	50	50	50	10	43.5	770%	87%	災害時に通信が途切えないよう、役場と各小中学校、仮設住宅に情報通信(FWA)を整備した。
指標07			延べ参加者数 人	社会	定量評価 ※1、2年目のみ進捗率評価	0	内容検討	制度設計	20	40	100	内容検討	検討段階	0%	0%	検討段階である。	